

国際インターリッジ計画フェローシップ報告

海洋研究開発機構・川口慎介

去る2010年10月7日から11月21日まで、2010年度インターリッジフェローシッププログラムの一環として、ウッズホール海洋研究所(WHOIと略しフーイと読みます)に滞在してきましたのでご報告いたします。オフィシャルには英語でリリースされますので、こちらは半公式の日本語バージョンです。まず簡単に結論ですが、非常に素晴らしい経験をする事ができました。それもこれも、すべては受入研究者であるジェフ・シーウォルド博士とテクニシャンのショーン・シルヴァが良いヤツだったおかげです。

研究活動としては、熱水の温度・圧力条件などを模した熱水堆積物反応実験を実施したわけですが、なぜこの実験が必要だったかと言いますと、沖縄トラフなど堆積物が存在する熱水域ではメタン濃度が高いことが知られており、この原因として堆積物の熱分解過程というものが想定されてきたのですが、実はその実態があまりよくわかっていなかったのです。この実験をすることで「熱水環境における有機物の熱分解的な化学組成」を明らかにできれば、堆積物の関与する熱水域でどのようなことが起こっているのかを、より良く把握することができると考えたわけでした。そこで、沖縄トラフ伊是名海穴 JADE 熱水域で堆積物を採取して、これを熱水実験に定評のある WHOI に持ち込み、実験をしました。実際のところ、このような実験装置は私の現在の所属である海洋研究開発機構プレカンブリアンエコシステムラボにもあるのですが、あちらが本場ですから、装置の運用について論文に書かれないような微妙なテクを知りたいというような狙いもありました。さて WHOI での実験では、温度を上げながら適宜試料を採取し、採取した試料の分析を適当なタイミングで実施しました。実際は週一回の実験以外は、特に操作はなく、論文を書いたりして過しました。一番知りたいのは熱分解的な同位体比だったのですが、同位体分析計の調子が悪く、「装置が直ったら分析しておくよ」という言葉を信じて帰国しました。一通りの作業をジェフあるいはショーンに習い、二回目からは基本的に自分でシコシコと実験しました。実験自体は大変うまくいって、「データがすべてを物語っている」とジェフが言うように、そのまま論文にできるほど、素晴らしいデータが取れております。やったね。

滞在40日目にはセミナー発表もしました。WHOI や近隣のウッズホール海洋生物学研究所(こちらは WHMBL、あるいは単に MBL と略されます)に所属する熱水やインターリッジに関連する研究者に声かけをして開催されました。英語で40分間話せばなしというのは大変にしんどいものでしたが、幸いみなさん興味を持ってくれたように感じました。セミナーの後にはクリス・ジャーマン博士のお部屋で、今後の JAMSTEC あるいは WHOI の航海計画と協力可能性を語り合いました。

滞在中は WHOI のゲストハウスという2階建て2LDKの部屋で暮しましたが、なかなか快適なものでした。前半はルンタオという中国人、後半はマークという米国人とハウスシェアをしましたが、二人とも良いヤツでした。WHOI のサッカーチームにも混ぜてもらって、昼休みを満喫しました。

なんといっても、われわれ非英語圏の人間は常々英語アレルギーのようなものを感じています

が、これが概ね払拭されたのも、今回の成果と言えるでしょう。このような取り組みが今後も継続され、好機に浴する学生やポストクがうまれることは非常に良いことではないかと思います。最後になりましたが、このフェローシップを推進するために尽力いただいた皆さんに感謝申し上げます。